# PCT

# 世界知的所有権機関 際 事 務 局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願



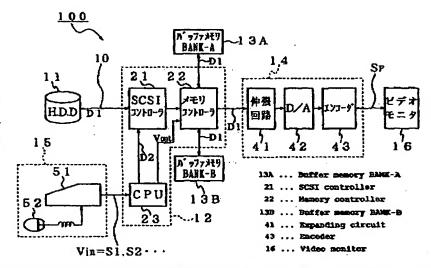
(51) 国際特許分類6 (11) 国際公開番号 WO98/44730 H04N 5/93 A1 (43) 国際公開日 1998年10月8日(08.10.98) (21) 国際出願番号 PCT/JP98/01566 (81) 指定国 CA, US. (22) 国際出願日 1998年4月3日(03.04.98) 添付公開書類 因際調查報告書 (30) 優先権データ 特願平9/85415 1997年4月3日(03.04.97) (71) 出願人(米国を除くすべての指定国について) ソニー株式会社(SONY CORPORATION)[JP/JP] 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 Tokyo, (JP) (72) 発明者;および (75) 発明者/出願人(米国についてのみ) 赤羽根茂(AKAHANE, Shigeru)[JP/JP] 〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内 Tokyo, (JP) (74) 代理人 弁理士 山口邦夫, 外(YAMAGUCHI, Kunio et al.) 〒101-0047 東京都千代田区内神田1丁目15番2号 平山ビル5階 Tokyo, (JP)

RECORDING AND REPRODUCING DEVICE AND METHOD FOR REPRODUCING VIDEO INFORMATION AT (54)Title: VARIABLE SPEED

(54)発明の名称 記録再生装置および映像情報の変速再生方法

#### (57) Abstract

A recording and reproducing device which can smoothly reproduce information without causing frame skipping even when the reproducing speed instructed from outside momently changes. The recording and reproducing device is provided with a hard disk (11) which stores n frames of video information (D1), two buffer memories (13A and 13B) which input continuous m frames of video information (D1) and output the information (D1) by alternately performing writing and reading out, a reproducing means (14) which reproduces the information (D1), a keyboard (51) which is used for instructing the reproducing speed of the information (D1), and a CPU (23) which alternately writes the information in the memories (13A and 13B) so that several frames of video information (D1) can be repeated and, at the same time, finds the reproducing speed range in which slow



reproduction can be performed based on the information (D1) and, after correcting the reproducing speed so that the speed can fall within the range, reads out the information to the reproducing means (14) from the memories (13A and 13B) based on the corrected reproducing speed.

# (57)要約

外部から指示された再生速度が時々刻々と変化してもフレーム跳びを発生する ことなく映像情報を滑らかに再生できるようにする。

nフレーム分の映像情報D1を格納するハードディスク11と、連続したmフレーム分の映像情報D1を入力し、書き込みと読み出しとを切り替えながら映像情報D1を出力する2つのパッファメモリ13A. 13Bと、この映像情報D1を再生する再生手段14と、映像情報D1の再生速度を指示するキーボード51と、この再生速度に基づいて、メモリ13A. 13Bに、何フレーム分かの映像情報D1が重複するように映像情報D1を交互に書き込むと共に、その映像情報D1によってスロー再生可能な再生速度範囲を求め、この範囲内に納まるように再生速度を補正した後、補正後の再生速度に基づいてメモリ13A. 13Bから再生速度を補正した後、補正後の再生速度に基づいてメモリ13A. 13Bから再生手段14へ映像情報D1を読み出すCPU23とを備えるものである。

PCTに基づいて公開される国際出願のペンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報) アルバニナ アルメニナ オーストリナ オーストリリア オーストラリア アゼルバイ・シャン ボズニナーベールツェゴビナ バルバドス ベルギー・ファソ ブルガリナ ベナン F R A B D E H M N スロヴァキア シエラ・レオネ セネガル・ スクジランド チャーゴー トーゴー リベリトナン リルリントナントナント アーファイン アーファイン グラードガド アーファイン グラードガス アーファイン アーフィー アーファイン アーフ SINZDGJM AZ BABBEF BG BB BR BY ーゴスラヴィア TTAGSZNUVYV GW GR HUDE LIST リニダッド・トハゴ ML MR MX MX NL NC PT プラジル ベラルー カナダ トリーフィー リクラグ ウガンダ 米国 ウズィキスタン グイエゴースラ ビンパブエ ジンパブエ CAFGHIMNUYZEK 中央アフリカ コンゴー コンコー スイス コートジボアール カメルーン 中國 JEEGPRZCIK KKKLLLK

## 明細書

記録再生装置および映像情報の変速再生方法

## 技術分野

この本発明は、滑らかで応答性の良い変速再生を行うことができる変速再生方式のデジタル映像記録再生装置に適用して好適な記録再生装置および映像情報の 変速再生方法に関する。

## 背景技術

一般にハードディスクを使用したデジタル方式の映像記録再生装置では、メモリ容量が大きくアクセス時間が長くかかる。このアクセス時間を短縮するために、2パンク構成のバッファメモリを使用した情報読み出し方式が採られる。この方式では、汎用的な1組のパッファメモリの一方に映像情報が書き込まれるときに、他方のパッファメモリから映像情報が読み出される。このように周期的に書き込みと読み出しとが切り替えられて、映像情報の連続的な記録再生が行われる。この機能を単一で実現するメモリデバイスとしてはデュアルポートメモリがある。

図8はこの種のデジタル映像記録再生装置の構成を示す概念図である。図8において、ハードディスク1には書き込み読み出し専用のコントローラ2が接続され、nフレーム分の映像情報から連続したmフレーム分の映像情報を読み出すような制御が行われる。コントローラ2にはキーボード5が接続され、このキーボード5に設けられたサーチダイアル5Aによって映像情報の再生速度が指示される。

コントローラ2には2つのバンク構成のバッファメモリ3A. 3Bが接続され、再生速度に従ってハードディスク1から映像情報が読み出されて交互に書き込まれる。このような方式のデジタル映像記録再生装置を使用して行う映像編集作業で、映像の頭出し等を行うためには、一般的には映像をスロー再生しなければならない。この際に1倍速以下の任意の再生速度(オペレータの指示速度)で映像を変速再生することになる。

この再生速度はサーチダイアル5Aによって指示される。バッファメモリ3A.

3Bの出力段側には再生回路4が接続され、バッファメモリ3A、3Bから交互に読み出された映像情報が再生される。この種の記録再生装置では、アルゴリズムをなるべく簡略化するために、バンク周期Tに基づいてバッファメモリ3A、3Bから映像情報が読み出される。バンク周期Tはバッファメモリ3A、3Bの書き込み期間又は読み出し期間を示す。

次に、1倍速再生モード時の動作を説明する。まず、オペレータから再生速度が指示される。指示された再生速度でハードディスク1からバッファメモリ3A ヘフレーム単位に映像情報が読み出される。このとき、ハードディスク1からm フレーム分の映像情報がまとめて読み出され、その映像情報がバッファメモリ3 Aに書き込まれる。

バッファメモリ3Aの書き込みが終わると、図9に示すようにバンク周期Tが切り替わる。バンク周期Tはオペレータが指示した再生速度にかかわらず常に一定であり、mフレーム毎に切り替えられる。この切り替えによってバッファメモリ3Bへの書き込みが始まると同時に、バッファメモリ3Aから再生回路への読み出しが始まる。バッファメモリ3Aから読み出された映像情報は再生回路4で再生される。

また、パッファメモリ3Bへの書き込みおよびパッファメモリ3Aからの読み出しが終了すると、パンク周期Tが切り替わる。この切り替えによって、パッファメモリ3Bからの読み出しが始まると同時にパッファメモリ3Aへの書き込みが始まる。パッファメモリ3Bから読み出された映像情報は再生回路4で再生される。

このように2パンク構成のパッファメモリ3A. 3Bを使用した映像記録再生 装置では1倍速時再生モードであれば、高価なデュアルポートメモリに依存する ことなく、映像情報の連続的な記録再生ができるという特徴を有している。

ところで、1倍速以下の任意の再生速度(スチル再生用ゼロ速度を含む)が指示されたときには、バンク切り替え時にフレーム跳びが発生する。

例えば、オペレータがサーチダイアル5Aを使用して映像の頭出し等をする場合、1倍速以下の再生速度が指示される。この再生速度に従ってハードディスク 1からバッファメモリ3A、3Bへフレーム単位に映像情報が読み出される。し かし、オペレータから指示された再生速度は映像の検索のために時々刻々と変化していく。しかも、ハードディスク1からバッファメモリ3A、3Bへフレーム単位に映像情報を読み出すには長いアクセス時間を要する。

このため、オペレータが再生速度を指示してから、再生回路 4 へ映像情報が出力されるまでには相当の時間を要するようになる。これにより、非常にレスポンスの悪い変速再生となってしまうという問題がある。

また、従来の記録再生装置では、再生速度に関係なくパンク周期Tに基づいて mフレーム毎にパッファメモリ3A. 3Bが切り替えられてしまう。

例えば、映像の頭出し部分が近づき、この時点で、一方のバッファメモリ3Aの映像情報をスロー再生のために、先に指定された再生速度に依存させることなく、更に連続して読み出したい場合でも、パッファメモリ3Aから3Bへ切り替えられてしまう。

このため、パッファメモリ3Aから同じフレームの映像情報を再生回路4に読み出したいのに、スロー再生のために他方のパッファメモリ3Bの映像情報を再生回路4へ読み出さなくてはならなくなる。これにより、連続したフレームの映像情報がパッファメモリ3A. 3Bから読み出されずに、跳びとびのフレームの映像情報が再生回路4に出力される。このことから、いわゆる、フレーム跳びが発生して、滑らかなスロー再生ができないという問題がある。

このように従来の変速再生方式ではハードディスク1からバッファメモリ3A. 3Bへの映像情報のフレームを決定するアルゴリズムと、バッファメモリ3A. 3Bから再生回路4への映像情報のフレームを決定するアルゴリズムとを関連付けて読み出し制御を行うとした場合、バッファメモリ3A, 3Bへの書き込みと読み出しとでは取り扱うフレーム単位が異なり、非常に複雑なものになってしまう。

そこで、本発明では上記した課題に鑑み、外部から指示された再生速度が時々 刻々と変化しても、バンク切り替え時のフレーム跳びの発生を無くせるような記 録再生装置および映像情報の変速再生方法を提供する。

#### 発明の開示

この発明の記録再生装置では、nフレーム(n=0, 1, 2, 3・・・)分の映像情報を格納する記録手段と、この記録手段から連続したmフレーム(m<n)分の映像情報を入力し、その映像情報に対する書き込み機能と読み出し機能とを切り替えながら、この映像情報を出力する2つのメモリと、このメモリから出力された映像情報を再生する再生手段と、この再生手段による映像情報の再生速度を指示する指示手段と、この指示手段による再生速度に基づいて、2つのメモリに、何フレーム分かの映像情報が重複するように連続させたmフレームの映像情報を交互に書き込むような制御を実行すると共に、そのmフレームの映像情報によってスロー再生可能な再生速度範囲を求め、この再生速度範囲内に納まるように指示手段による再生速度を補正した後、補正された再生速度に基づいて求められた該当フレームの映像情報を読み出すような制御を実行する制御手段とを備えるものである。

本発明の記録再生装置では、指示手段から再生速度が指示されると、この再生 速度に基づいて重複した映像情報を含む連続したmフレームの映像情報が、2つのメモリに交互に書き込まれる。これと共に制御手段によって、重複部分の映像情報を含むmフレームの映像情報からスロー再生可能な再生速度範囲が求められる。この再生速度範囲内に納まるように、指示手段からの再生速度が補正される。そして、この補正された再生速度に基づいて映像情報のフレームが決定され、そのフレームの映像情報が2つのメモリから再生手段へ読み出される。

従って、フレーム跳びを生ずるような大きな再生速度を、オペレータが指示しても、スロー再生可能な再生速度範囲に再生速度が制限されるので、フレーム跳びを生ずることなく、補正された再生速度に基づいて映像情報をスロー再生することができる。

これにより、映像の頭出し等において、外部から指示された再生速度が時々刻々と変化しても滑らかな映像を再生できるし、オペレータの再生指示に素早く応答する記録再生装置を提供できる。

また、映像情報の変速再生方法ではハードディスクの読み出し制御に関するアルゴリズムとバッファメモリからの読み出し制御に関するアルゴリズムとを独立させることができる。従って、システムを簡略化でき外乱に強い記録再生装置を

## 構築できる。

このような記録再生装置は変速再生方式のデジタル映像記録再生装置に適用して極めて好適である。

## 図面の簡単な説明

図1は、本発明の実施の形態としての記録再生装置の構成を示す図である。図2は、バッファメモリ13A. 13B内の映像情報のフレーム番号の一例である。図3は、最大再生速度Vmax及び最低再生速度Vminの算出例に関する図である。図4は、本実施例に係る映像情報の再生フレーム番号を決定するフローチャートである。図5は、本実施例に係るパッファメモリ13A. 13B内の映像情報のフレーム番号である。図6は、本実施例に係るパンク切り替え時のパッファメモリ13A. 13B内のフレーム番号である。図7は、比較例に係るパンク切り替え時のパッファメモリ13A. 13B内のフレーム番号である。図8は、2パンク構成のパッファメモリ3A. 3Bを備えた従来の記録再生装置の構成を示す図である。図9は、従来の記録再生装置の1倍速再生モード時の動作タイムチャートである。

# 発明の実施をするための最良の形態

以下、図面を参照しながらこの発明の実施の形態について説明をする。

図1は本発明の実施の形態としての記録再生装置100の構成を示す図である。この実施の形態では、外部から指示された再生速度に基づいて何フレーム分かの重複した映像情報を含む連続したm(整数)フレーム分の映像情報を2つのメモリに交互に書き込むようにする。これと共に、重複部分の映像情報を含んだmフレームの映像情報によってスロー再生可能な再生速度範囲を求める。この再生速度範囲内に納まるように再生速度を補正した後、この補正された再生速度に基づいてメモリから映像情報を読み出すようにする。これにより、滑らかで応答性の良い変速再生を行えるようにした。

図1において、SCSIバス10には記録手段としてのランダムアクセス可能なハードディスク11が接続され、nフレーム (n=0, 1, 2, 3・・・) 分

の映像情報D1が格納される。このハードディスク11には制御手段12が接続され、連続したmフレーム(m<n)分の映像情報D1を読み出すような制御がなされる。制御手段12には2バンク構成のバッファメモリ13A. 13Bが接続され、ハードディスク11から読み出されたmフレーム分の映像情報D1が交互に書き込まれる。このような2バンク構成を採ると汎用的なメモリデバイスを使用することができるので、デバイスコストを低く抑えることができる。

バッファメモリ13A、13Bには制御手段12を介して再生手段14が接続され、制御手段12によって交互に読み出されたmフレーム分の映像情報D1が再生される。更に制御手段12には指示手段15が接続され、再生手段14による映像情報D1の再生速度が指示できるようになっている。

このようにして変速再生方式のデジタル映像記録再生装置に適用して好適な記録再生装置100が構成される。

本実施の形態の記録再生装置100では2つのパッファメモリ13A、13B間で重複した映像情報D1を記録させ、その重複している映像情報D1に着目して、次のパンク切り替えまでの時間に重複した映像情報D1を読み出すような制御が行われる。

つまり、指示手段15から映像情報D1の再生速度が指示されると、制御手段12では再生速度に基づいて重複した映像情報D1を含む連続したmフレームの映像情報D1が、2つのバッファメモリ13A、13Bに交互に書き込まれる。これに従って制御手段では、重複部分の映像情報D1を含むmフレームの映像情報D1からスロー再生可能な再生速度範囲が求められる。その後、この再生速度範囲内に指示手段からの再生速度が納まるように、その再生速度が補正される。そして、この補正された再生速度(以下目標再生速度という)に基づいて映像情報D1のフレームが決定され、そのフレームの映像情報D1が2つのバッファメモリ13A、13Bから再生手段14へ読み出される。

これにより、フレーム跳びを生ずるような大きな再生速度を、指示手段15を介してオペレータが指示しても、スロー再生可能な再生速度範囲に目標再生速度が制限されるので、フレーム跳びを生ずることなく、目標再生速度に基づいて映像情報D1をスロー再生することができる。

(実施例)

映像情報D1の変速再生が可能な記録再生装置100では、まず、何フレーム分かの重複した映像情報を含む連続したmフレーム分の映像情報D1に基づいて最高再生速度と最低再生速度を求める。その後、この最高再生速度と最低再生速度に基づいて外部から指示された再生速度に制限を加える。そして、制限が加えられた最新の目標再生速度に基づいてバッファメモリ13A、13Bから読み出す映像情報D1の再生フレーム番号を決定するようにした。

この実施例でハードディスク11にはデータ格納時に圧縮されたデジタル圧縮映像情報(以下単に映像情報という)D1が格納される。実施例としての制御手段12は図1に示すように、SCSI(Small Computer System Interface)プロトコルに準拠したSCSIコントローラ21、メモリコントローラ22および中央演算装置(以下CPUという:central processing unit)23から構成される。

SCS I バス 10には SCS I コントローラ 21 が接続され、ハードディスク 11 から 2 つのバッファメモリ 13 A. 13 B へ連続した例えば、5 (m=5) フレーム分の映像情報 D1 を読み出すような制御がなされる。この読み出し制御 については後述する。

SCS I コントローラ21にはメモリコントローラ22が接続され、バッファメモリ13A、13Bに交互に映像情報D1を書き込むような制御が行われる。これと共にそのバッファメモリ13A、13Bから交互に映像情報D1を読み出すような制御が行われる。

パッファメモリ13A. 13Bはオペレータから指示された再生速度Vin=S1、S2・・・に基づいて、ハードディスク11から読み出された映像情報D1を書き込む機能と、再生手段14に映像情報D1を出力する読み出し機能とを有している。書き込み及び読み出しは各々のパッファメモリ13A. 13Bに分担され、その機能がパンク周期Tに基づいて切り替えられる。これにより、連続的な映像情報D1の読み出しが保証される。

表1はオペレータから指示された再生速度Vinとバッファメモリ13A、13 Bの読み出し/書き込み状態を示している。表1では5フレーム周期でバンク切 り替えを行う一例を示している。

表 1

時刻 (フレーム)	再生速度 Vin	書き込み	読み出し
01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11	\$123456789012 \$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$	BANK-A BANK-A BANK-A BANK-A BANK-B BANK-B BANK-B BANK-B BANK-B BANK-B	BANK-B BANK-B BANK-B BANK-A BANK-A BANK-A BANK-A BANK-A BANK-B BANK-B

表1において、フレーム01~フレーム05までの5フレーム間に映像情報D1がハードディスク11からバッファメモリ(BANKーA)13Aへ書き込まれる。その際に、どのフレーム番号の映像情報D1をバッファメモリ(BANKーB)13Bから読み出すかは、フレーム01以前にオペレータが指示した再生速度Vinに基づいてフレーム01のタイミングで決定される。この決定方法につては後述する。

また、フレーム01からフレーム05の間に書き込まれた映像情報D1はフレーム06~フレーム10の5フレームの間に、パッファメモリ13Aから再生手段14へ出力される。その際に使用される再生速度Vinはそのときの最新の目標再生速度Voutが使用される。つまり、フレーム06の場合には再生速度Vin=S6が使用され、フレーム09の場合は再生速度Vin=S9が使用される。

SCSIコントローラ21およびメモリコントローラ22にはCPU23が接続される。このCPU23には、サーチダイアルなどの機能を持つ指示手段15としてのキーボード51やマウス52が接続され、映像の頭出し等でオペレータ

が希望する再生速度Vin=01、S2・・・が入力される。

また、メモリコントローラ22の出力段に接続された再生手段14は伸張回路 41、デジタル・アナログ変換回路(以下D/A変換回路という)42およびエ ンコーダ43から構成される。

メモリコントローラ22の出力段には伸張回路41が接続され、バッファメモリ13A. 13Bから読み出された映像情報D1 (デジタル圧縮映像情報)が伸張 (解凍)される。伸張回路41の出力段にはD/A変換回路42が接続され、デジタル映像情報がアナログ映像情報に変換される。D/A変換回路42の出力段にはエンコーダ43が接続され、アナログ映像情報がビデオモニタ16に表示できる信号形態 (映像表示信号Sp) に変換される。エンコーダ43の出力段にはビデオモニタ16が接続され、映像表示信号Spに基づいて映像が表示される。

次に、実施例としての記録再生装置100の動作を説明する。ここではハードディスク11から映像情報D1を1倍速以下の再生速度Vinで読み出して再生する場合について説明する。

まず、映像の頭出し等を行うために、オペレータは希望する再生速度Vin=S1. S2. S3・・・をキーボード51を介してCPU23に指示する。この再生速度VinがCPU23によって検出されると、CPU23からSCSIコントローラ21へ読み出し命令D2が発行される。この読み出し命令D2はハードディスク11から目標となる再生フレーム番号の映像情報D1を読み出せという指示である。

読み出し命令D2を受信したSCSIコントローラ21では、オペレータから指示された再生速度Vinに従って、ハードディスク11からバッファメモリ13 A又は13Bに読み出す映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。再生フレーム番号は(1)式、すなわち、

再生フレーム番号=「再生速度積算情報」

+「バンク切り替え情報」×「再生速度情報」・・・(1) によって求められる。

ここで、再生速度積算情報は目標再生速度Voutを積算したデータである。具体 的には目標再生速度Voutを積算した値の小数点以下を切り捨てた整数部分が再生 フレーム番号として使用される。目標再生速度Voutはバッファメモリ13A、1 3Bから再生手段14へ映像情報D1を読み出すときに用いたものである。

パンク切り替え情報はパンク周期Tをフレーム数で示したものである。再生速度情報は外部から指示された再生速度Vin=S1、S2・・・を示すものである。

例えば、時刻T=0のときの再生速度積算情報が0で、バンク周期が1の場合であって、オペレータから再生速度Vin=0. 6倍速が連続して与えられた場合には、再生速度積算情報は表2のようになる。

表 2

時刻	再生速度 積算情報	再生フレーム
0 1フレーム 3フレームム 4フレーム 5フレーム 6フレーム 6フレーム	0 0.60 1.20 1.80 2.40 3.00 3.60	フレーム 0 フレーム 1 フレーム 1 フレーム 2 フレーム 3 フレー

この表 2 は再生速度積算情報は時刻経過と共に変化し、フレーム0、0、1、1、2、3、3 の映像情報D1 がハードディスクバ11 からバッファメモリ13 A. 13 Bへ読み出される例を示している。

次に、オペレータから指示された再生速度Vinに基づいてパッファメモリ13 A. 13Bから伸張回路41へ映像情報D1を読み出す動作を説明する。説明をわかり易くするために、図2に示すように、パッファメモリ13Aにはフレーム0~フレーム4の映像情報D1が書き込まれ、パッファメモリ13Bにはフレーム2~フレーム6の映像情報D1が書き込まれ、フレーム2~フレーム4を重複させた場合について説明する。

図4はバッファメモリ13A. 13Bから伸張回路41へ読み出す映像情報D 1のフレーム番号を決定するフローチャートを示している。図4において、まず、 ステップA1でCPU23によって最高再生速度Vmaxと最低再生速度Vminとが算出される。例えば、図3に示すように、バッファメモリ13Aから読み出される映像情報D1の現在再生位置をFp(フレーム番号で表示)とし、その再生位置Fpを基準にして最も遠い重複位置をFf(最も遅く読み出される重複部分の映像情報D1のフレーム番号)とし、このバッファメモリ13Aの読み出し機能からパッファメモリ13Bの読み出し機能へ切り替わるまでの時間をt(フレーム数)とするとき、最高再生速度Vmaxを(2)式、すなわち、

また、現在再生位置Fpを基準にして最も近い重複位置をFn(最も早く読み出される重複部分の映像情報D1のフレーム番号)とするとき、最低再生速度Vminを(3)式、すなわち、

その後、ステップA2で、最低再生速度Vminおよび最高再生速度Vmaxとオペレータから指示された再生速度Vinとが比較される。この比較結果で、オペレータにより指示された再生速度Vinが最高再生速度Vmaxよりも大きい場合(Vin>Vmax)は、ステップA3でVout=Vmaxとするように目標再生速度Voutを最高再生速度Vmaxに設定する。この再生速度Vinが最低再生速度Vminよりも小さい場合(Vin<Vmin)は、ステップA4でVout=Vminとするように目標再生速度Voutを最低再生速度Vminに設定する。

この再生速度Vinが最低再生速度Vminから最高再生速度Vmaxの範囲内にある場合は、ステップA5でVin=Voutとするようにオペレータから指示された再生速度Vinをそのまま目標再生速度Voutとして設定する。

上述の図2の例では、バッファメモリ13A. 13B間で重複している映像情報D1はフレーム2からフレーム4であり、現在再生位置Fpがフレーム0、最も遠い重複位置Ffがフレーム4である。バンク切り替えまでの時間tが4フレームである。従って、これらの関係から最高再生速度Vmaxは(2)式により、

$$V_{max} = (4-0) / 4$$

= 1

となる。また、最も近い重複位置Fnがフレーム2であるから、最低再生速度Vminは(3)式により、

$$Vmin = (2-0) / 4$$
  
= 0. 5

となる。これにより、この例では+0. 5倍速 $\sim+1$ 倍速の間に再生速度Vinが制限されることになる。

ステップA6では目標再生速度情報に基づいてバッファメモリ13A、13Bから再生手段14へ読み出す映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。再生フレーム番号は(4)式、すなわち、

再生フレーム番号=「再生速度積算情報」+「目標再生速度情報」・・(4) によって求められる。

目標再生速度情報はCPU23によって計算された目標再生速度Voutである。 具体的には再生速度Vinを積算した値と目標再生速度Voutとを加算した値の小数 点以下を切り捨てた整数部分が再生フレーム番号として使用される。

その後の動作は従来装置と同様である。バッファメモリ13A. 13Bから読み出されたデジタル圧縮映像情報が伸張され、その後、デジタル映像情報がアナログ映像情報に変換された後、アナログ映像情報がビデオモニタ16に表示できる映像表示信号Spに変換される。

これにより、映像表示信号Spを入力したビデオモニタ16で映像が表示される。従って、オペレータおよびこの記録再生装置100では、再生速度の指示とこの再生速度の補正等を連続的に繰り返すことにより、映像の頭出しなどを行うことができる。

このように本実施例の記録再生装置100では、ハードディスク11から2つのパッファメモリ13A. 13Bへ読み出す映像情報D1の再生フレーム番号を決定するアルゴリズムと、この2つのパッファメモリ13A. 13Bから再生手段14へ読み出す映像情報D1の再生フレーム番号を決定するアルゴリズムとを完全に独立させることができる。従って、システムが簡単で外乱に強い記録再生装置100が構成できる。

また、本実施例では2つのアルゴリズムに基づいて算出した最新の目標再生速度Voutを用いて再生手段14へ出力する再生フレーム番号が決定されるので、映像の頭出し等において、フレーム跳びを発生することなく、滑らかな映像を再生できるし、オペレータの再生指示に素早く応答する記録再生装置100を提供できる。

## (比較例)

次に、外部から指示された再生速度Vinを最大再生速度Vmaxと最低再生速度Vinに基づいて制限する場合とそれを制限しない場合について、フレーム跳びが発生するかを比較する。

比較条件は、以下の通りである。

- 1. バンク周期Tを5フレームとする。
- 2. パッファメモリ13Aには便宜上フレーム0~フレーム4の映像 情報が格納される。
- 3. バンク切り替え後の時刻をTとする。
- 4. 時刻(T-1)における再生速度積算情報を0とする(すなわち、時刻T-1に再生手段14へ読み出された映像情報D1はフレーム0である)。
- 5. 時刻T~T+5までの各時刻での再生速度VinをそれぞれS1=
   0. 6倍速、S2=0. 3倍速、S3=0. 1倍速、S4=0倍速、S5=0倍速、S6=0倍速とする。

以上のような比較条件において、バッファメモリ13A, 13Bから再生手段 14へ出力する映像情報D1の再生フレーム番号の決定方法を以下に示す。

[1] 外部から指示された再生速度Vinを最大再生速度Vmaxと最低再生速度Vinに基づいて制限する場合、すなわち、本実施例の場合は表3のようになった。

表3

時刻	指示された 再生速度	再生フレーム	備考
T T+1 T+2 T+3 T+4 T+5	0. 6倍速 0. 3倍速 0. 1倍速 0倍速 0倍速 0倍速	フレーム 0 フレーム 1 フレーム 2 フレーム 3 フレーム 3	<b>→</b> フレーム跳び <b>→</b> が発生しない

この表3では全ての時刻 $T\sim T+5$ において、フレーム跳びなく再生されている。

## (1) 時刻T

この時刻ではハードディスク11からパッファメモリ13Bへ書き込む映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。次のパンク切り替えが実行されるまでの時間 t は5フレームある。仮に次のパンク切り替えまでの再生速度 V in = 0.6に変化がなかったと仮定すると、次のパンク切り替え時に再生されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は上述した(1)式により計算される。

再生フレーム番号=「再生速度積算情報」

+「パンク切り替え情報」×「再生速度情報」

 $= 0 + 5 \times 0$ . 6 = 3. 0

となる。小数点以下を切り捨てると再生フレーム番号はフレーム3となる。

従って、フレーム3~フレーム7までの映像情報D1がハードディスク11から読み出されてバッファメモリ13Bに書き込まれる。

これにより、バッファメモリ13A、13B内には図5に示すような再生フレーム番号の映像情報D1が格納されることになる。

また、時刻Tではバッファメモリ13Aから再生手段14へ出力する映像情報 D1の再生フレーム番号が決定される。まず、最高再生速度Vmaxと最低再生速度 Vminとが算出される。最も遠い重複位置Ffはフレーム4であり、現在再生位置 Fpはフレーム0であり、パンク切り替えまでの時間 t は5 フレームである。従って、最高再生速度Vmaxは(2)式より、

$$V_{\text{max}} = (F f - F p) / t$$
  
=  $(4-0) / 5 = 0.8$ 

となる。

また、最も近い重複位置Fnはフレーム3であり、現在再生位置Fpはフレーム0であり、バンク切り替えまでの時間 t は5フレームである。従って、最低再生速度Vminは(3)式より、

Vnin= 
$$(F_n-F_p)/t$$
  
=  $(3-0)/5=0.6$ 

である。

次に再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度VinがS1=0. 6倍速であるのに対して、最低再生速度VminがO. 6であるから、目標再生速度VmutはO. 6となり、再生手段O14へ出力されるべき、再生フレーム番号は(4)式により計算される。

再生フレーム番号=「再生速度積算情報」+「目標再生速度情報」

$$= 0 + 0.6 = 0.6$$

となる。小数以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム 0 となる。 従って、時刻Tではパッファメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム 0 の映像 情報D1が出力される。

## (2) 時刻T+1

この時刻ではパッファメモリ13Aから再生手段14へ出力する次の映像情報 D1の再生フレーム番号が決定される。パンク切り替えまでの時間 tが1フレーム少なくなり、最高再生速度 V max は (2) 式により、

$$V_{max} = (4-0) / 4 = 1.0$$

となる。また、最低再生速度 Vninは (3) 式により、

$$Vmin = (3-0) / 4 = 0.75$$

となる。

次に再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度VinがS2=0. 3倍速で、最低再生速度VminがO. 75であるから、目標再生速度VoutはO. 75となり、再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は(4)式により、

$$=1.35$$

となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム1となる。 従って、時刻T+1ではバッファメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム1の 映像情報D1が出力される。

## (3) 時刻T+2

Vmax= 
$$(F f - F p) / t = (4-1) / 3$$
  
= 1. 0

となる。また、最低再生速度Vminは、

Vmin= 
$$(Fn-Fp)/t = (3-1)/3$$
  
= 0. 66

となる。

次に、再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度VinがS3=0. 1倍速で、最低再生速度Vminが0. 66であるから、目標再生速度Voutは0. 66となる。再生手段 14へ出力されるべき、再生フレーム番号は(4) 式により、

再生フレーム番号=1.35+0.66=2.01 となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム2なる。 従って、時刻T+2ではメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム2の映像情報 D1が出力される。

# (4) 時刻T+3

この時刻では現在再生位置F pがフレーム2 で次にメモリ1 3 Aから再生手段 1 4 へ出力する映像情報D 1 の再生フレーム番号が決定される。バンク切り替えまでの時間 t が前に比べて更に1 フレーム少なくなり、最高再生速度V max は(2)式により、

Vmax= 
$$(F f - F p) / t = (4-2) / 2$$
  
= 1. 0

となる。また、最低再生速度Vminは、

$$Vmin = (Fn-Fp) / t = (3-2) / 2$$
  
= 0. 5

となる。次に、再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度VinがS4 = 0倍速で、最低再生速度Vminが0. 5であるから、目標再生速度Voutは0. 5となる。再生手段14へ出力されるべき、再生フレーム番号は(4)式により、

= 2.51

となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム2となる。

従って、時刻T+3ではメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム2の映像情報D1が連続して出力される。

#### (5) 時刻T+4

この時刻では現在再生位置Fpがフレーム2で次にメモリ13Aから再生手段 14へ出力する映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。パンク切り替えまでの時間tが前に比べて更に1フレーム少なくなり、最高再生速度Vmaxは(2)式により、

Vmax= 
$$(Ff-Fp) / t = (4-2) / 1$$
  
= 2. 0

となる。また、最低再生速度Vninは、

$$V_{min} = (F_n - F_p) / t = (3-2) / 1$$
  
= 1. 0

となる。次に、再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限

を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度Vin n S S = 0倍速であるのに対して、最低再生速度Vin n S S = 06速で あるのに対して、最低再生速度Vin n S S = 06速で 1. 0となり、再生手段14へ出力されるべき、再生フレーム番号は (4) 式により、

再生フレーム番号=2.51+1.0

=3.51

となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム3となる。

従って、時刻T+4ではメモリ13Aから再生手段14へフレーム3の映像情報D1が出力される。

## (6) 時刻T+5

この時刻ではハードディスク11からメモリ13Aへ書き込む映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。次のパンク切り替えが実行されるまでの時間は5フレームある。仮に次のパンク切り替えまでの再生速度Vinに変化がなかったと仮定すると、次のパンク切り替え時に再生されるべき、再生フレーム番号の映像情報D1は(1)式により、次のように計算される。

再生フレーム番号=3. 51+5×0

=3.51

となる。小数点以下を切り捨てると再生フレーム番号はフレーム3となる。

従って、フレーム3~フレーム7までの映像情報D1がハードディスク11から読み出されてメモリ13Aに書き込まれる。

これにより、メモリ13A、13B内には以下の図6のような再生フレーム番号の映像情報D1が格納されることになる。

この時刻(T+5)では、メモリ13Bから再生手段14へ出力する映像情報 D1の再生フレーム番号が決定される。ここでパンク切り替えが発生し、パッファメモリ13Bからの映像情報 D1が再生手段14へ出力されることになる。再生手段14へ出力されるべき、再生フレーム番号は(2)~(4)式により計算される。

この時刻 (T+5) では現在再生位置Fpがフレーム3で、最も遠い重複位置Ffがフレーム7で、パンク切り替えまでの時間 t が5フレームである。従って、

最高再生速度Vmaxは(2)式により、

Vmax= 
$$(F f - F p) / t = (7-3) / 5$$
  
= 0. 8

となる。また、最も近い重複位置Fnがフレーム3であるから、最低再生速度V minは、

Vmin= 
$$(Fn-Fp) / t = (3-3) / 5$$
  
= 0. 0

となる。次に、再生速度Vinに最高再生速度Vmax及び最低再生速度Vminで制限を加える。この例ではオペレータから指示された再生速度VinがS6 = 0倍速で、最低再生速度Vminが0. 0であるから、目標再生速度Voutは0. 0となり、再生手段14へ出力されるべき、再生フレーム番号は(4)式により、

となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム3となる。

このように本実施例では、時刻(T+5)でバッファメモリ13Bにフレーム3の映像情報D1が格納されているから、再生手段14ヘフレーム3の映像情報D1を連続して出力できる。従って、フレーム跳びが発生しない。上述した比較例は一例であるが、オペレータから指示された任意の再生速度Vin (0≦Vin≦1.0)に対してフレーム跳びが発生が防止できることは容易に理解できる。

[2] これに対して、外部から指示された再生速度Vinを最大再生速度Vmaxや 最低再生速度Vinに基づいて制限しない場合には、表4に示すように、フレーム 跳びが発生する。比較条件は上記した通りである。

表 4

時刻	指示された 再生速度	再生フレーム	備考
T T+1 T+2 T+3 T+4 T+5	0.6倍速 0.3倍速 0.1倍速 0倍速 0倍速 0倍速	フレーム 0 フレーム 0 フレーム 1 フレーム 1 フレーム 3 フレーム 3	フレーム跳び が発生する

この表4によれば時刻T+5でフレーム跳びが発生して違和感を生じてしまう。このようなフレーム跳びが生ずるのは、ハードディスク11からバッファメモリ13A、13Bに映像情報D1を読み出したときに使用したままの、古い再生速度Vinに基づいてバッファメモリ13A、13Bから読み出す再生フレーム番号を決めているからである。

# (1) 時刻T

この時刻では本実施例と同様にフレーム3~フレーム7の5フレームの映像情報D1がハードディスク11から読み出されてパッファメモリ13Bに書き込まれる(図5参照)。

この時刻Tではメモリ13Aから再生手段14へ出力する映像情報D1のフレーム番号が決定される。再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は本実施例と異なり、(5)式により計算される。

再生フレーム番号=「再生速度積算情報」+「再生速度情報」・・・(5) 外部から指示された再生速度VinがS1=0.6倍速だから、

= 0.6

となる。小数点以下を切り捨てて再生フレーム番号はフレーム 0 となる。よって、時刻Tではバッファメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム 0 の映像情報 D1が出力される。

## (2) 時刻T+1

この時刻では再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は、再生速度積算情報が0.6で再生速度VinがS2=0.3倍速だから、(5)式により、

再生フレーム番号=0.6+0.3= 0.9

となる。小数点以下を切り捨てて再生フレーム番号はフレーム 0 となる。よって、 時刻T+1ではバッファメモリ13Aから再生手段14へフレーム 0 の映像情報 D1が出力される。

## (3) 時刻T+2

この時刻では再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は、再生速度積算情報が0.9で再生速度VinがS3=0.1倍速だから、(5)式により、

再生フレーム番号= 0.9+0.1 = 1.0

となる。小数点以下を切り捨てて再生フレーム番号はフレーム1となる。よって、 時刻T+2ではバッファメモリ13Aから再生手段14へフレーム1の映像情報 D1が出力される。

#### (4) 時刻T+3

この時刻では再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は、再生速度積算情報が1.0で再生速度VinがS4=0倍速だから、(5)式により、

再生フレーム番号= 1. 0+0 = 1. 0

となる。よって、時刻T+3ではバッファメモリ13Aから再生手段14ヘフレーム1の映像情報D1が連続して出力される。

## (5) 時刻T+4

この時刻では再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は、再生速度積算情報が1.0で再生速度VinがS5=0倍速だから、(5)式

により、

再生フレーム番号=1.0+0

= 1.0

となる。よって、バッファメモリ13Aから再生手段14へフレーム1の映像情報D1が更に連続して出力される。

## (6) 時刻T+5

この時刻ではハードディスク11からメモリ13Aへ書き込む映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。次のパンク切り替えが実行されるまでの時間は5フレームある。仮に次のパンク切り替えまでの再生速度Vinに変化がなかったと仮定すると、次のパンク切り替え時に再生されるべき、再生フレーム番号の映像情報D1は(1)式により、

再生フレーム番号=1.0+5×0

= 1.0

となる。小数点以下を切り捨てると再生フレーム番号はフレーム1となる。

従って、フレーム1~フレーム5までの映像情報D1がハードディスク11から読み出されてメモリ13Aに書き込まれる。

これにより、パッファメモリ13A, 13B内には図7のようなフレーム番号の映像情報D1が格納されることになる。

また、この時刻T+5では、バッファメモリ13Bから再生手段14へ出力する映像情報D1の再生フレーム番号が決定される。ここでパンク切り替えが発生し、パッファメモリ13Bからの映像情報D1を再生手段14へ出力することになる。再生手段14へ出力されるべき映像情報D1の再生フレーム番号は、再生速度積算情報が1.0で再生速度VinがS6=0倍速だから、(5)式により、

再生フレーム番号=1.0+0

= 1.0

となる。小数点以下を切り捨てると、再生フレーム番号はフレーム1となる。

このように再生速度Vinを最大再生速度Vmaxや最低再生速度Vinに基づいて制限しない方式では、時刻T+5で再生手段14へ出力される映像情報D1はフレーム1となるが、バッファメモリ13Bにフレーム1の映像情報D1が格納され

ていない。このため、最も近いフレーム3の映像情報D1が出力されてしまう。 従って、再生手段14に出力する映像情報D1はフレーム3となり、フレーム1 からフレーム3に跳んでしまい、いわゆるフレーム跳びが発生する。

# 産業上の利用可能性

この発明は変速再生方式のデジタル映像記録再生装置を用いた映像編集装置に 適用できる。

## 請求の範囲

1. nフレーム (n=0, 1, 2, 3・・・) 分の映像情報を格納する記録手段と、

前記記録手段から連続したmフレーム (m<n) 分の映像情報を入力し、前記映像情報に対する書き込み機能と読み出し機能とを交互に切り替えながら、前記映像情報を出力する2つのメモリと、

前記メモリから出力された映像情報を再生する再生手段と、

前記再生手段による映像情報の再生速度を指示する指示手段と、

前記指示手段による再生速度に基づいて前記2つのメモリに、何フレーム分かの映像情報が重複するように連続させたmフレーム分の映像情報を交互に書き込むような制御を実行すると共に、

前記mフレームの映像情報によってスロー再生可能な再生速度範囲を求め、前記再生速度範囲内に納まるように前記指示手段による再生速度を補正した後、補正された前記再生速度に基づいて前記メモリから前記再生手段へ交互に映像情報を読み出すような制御を実行する制御手段とを備えることを特徴とする記録再生装置。

2. 前記2つのメモリに、何フレーム分かの映像情報が重複するように連続させたmフレームの映像情報を交互に書き込むような制御を行う場合であって、

一方の前記メモリから読み出される映像情報の現在の再生位置と、前記現在の 再生位置を基準にして最も遅く読み出される重複部分の映像情報の再生位置と、 前記一方のメモリの読み出し機能から他方のメモリの読み出し機能へ切り替わる までの時間とから、最高再生速度を算出し、

かつ、一方の前記メモリから読み出される映像情報の現在の再生位置と、前記 現在の再生位置を基準にして最も早く読み出される重複部分の映像情報の再生位 置と、前記一方のメモリの読み出し機能から他方のメモリの読み出し機能へ切り 替わるまでの時間とから、最低再生速度を算出し、

前記最高再生速度および最低再生速度と前記指示手段により指示された再生速 度とをそれぞれ比較し、前記再生速度が最高再生速度よりも大きい場合は目標再 生速度として最高再生速度を設定し、

前記再生速度が最低再生速度よりも小さい場合は目標再生速度として最低再生速度を設定し、

前記再生速度が最低再生速度から最高再生速度の範囲内にある場合は目標再生速度として、指示された再生速度を設定することによって、

前記メモリから再生手段へ読み出す映像情報のフレームを決定するようにした ことを特徴とする請求の範囲第1項記載の記録再生装置。

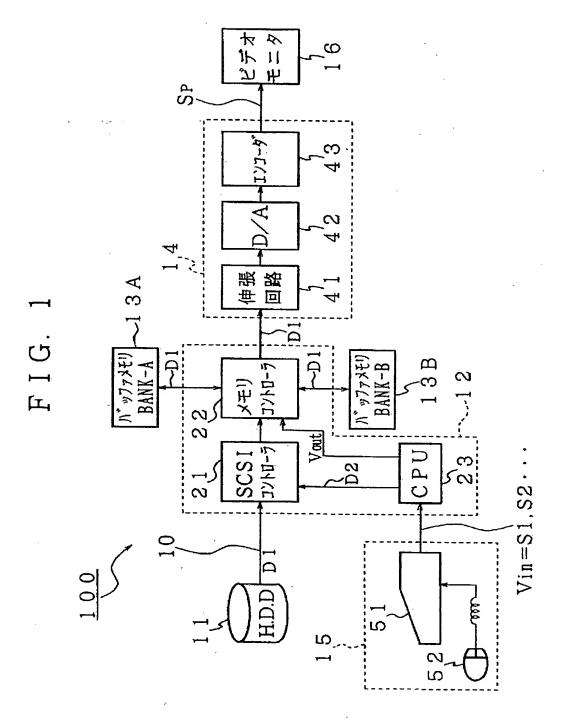
3. 外部から指示された再生速度に基づいて、nフレーム(n=0, 1, 2, 3・・・)分の映像情報から、何フレーム分かの重複した映像情報を含む連続したmフレーム(m<n)分の映像情報を読み出し、

読み出された前記mフレーム分の映像情報を2つのメモリ領域に交互に書き込み、

前記重復した映像情報を含むmフレームの映像情報によってスロー再生可能な 再生速度範囲を求め、

前記再生速度範囲内に納まるように前記外部からの再生速度を補正し、

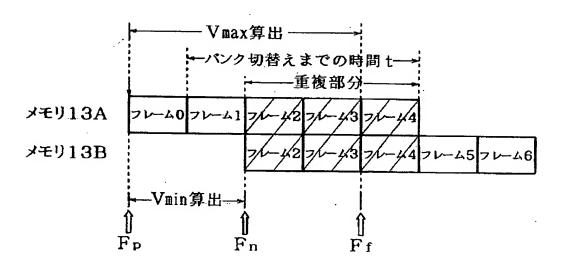
補正された前記再生速度に基づいて前記2つのメモリ領域から交互に前記映像 情報を読み出して再生するようにしたことを特徴とする映像情報の変速再生方法。



F I G. 2

メモリ13A	フレーム0	フレーム1	フレーム2	フレーム3	フレーム4
メモリ13B	フレーム2	フレーム3	フレーム4	フレーム5	フレーム6

F I G. 3



F I G. 4

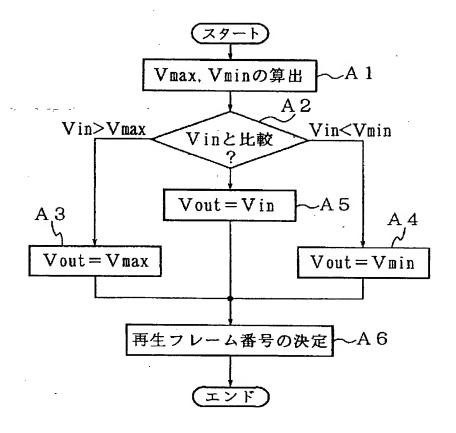


FIG. 5

メモリ13A	フレーム0	フレーム1	フレーム2	フレーム3	フレーム4
メモリ13B	フレーム3	フレーム4	フレーム5	フレーム6	フレーム7

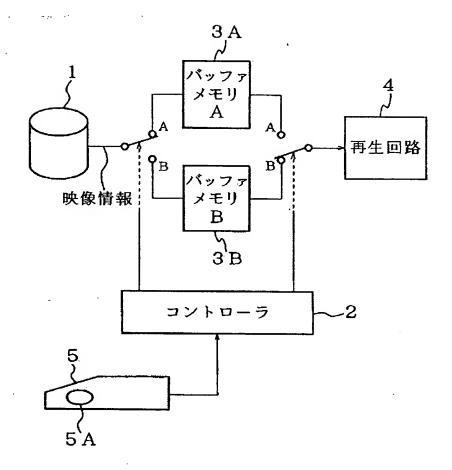
F I G. 6

メモリ13A	フレーム3	フレーム4	フレーム5	フレーム6	フレーム7
メモリ13B	フレーム3	フレーム4	フレーム5	フレーム6	フレーム7

F I G. 7

メモリ13A	フレーム1	フレーム2	フレーム3	フレーム4	フレーム5
メモリ13B	フレーム3	フレーム4	フレーム5	フレーム6	フレーム7

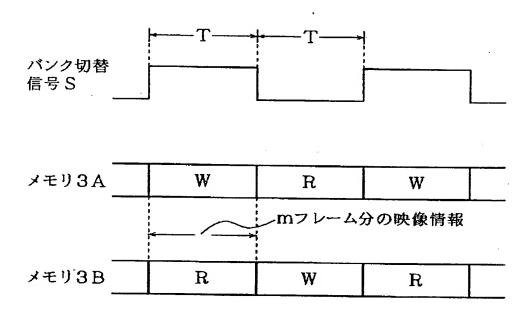
F I G. 8



ALTERNATION TO THE THE PROPERTY OF THE PROPERT

6/6

F I G. 9



T:バンク周期

W:書き込み

R:読み出し

# INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No. PCT/JP98/01566

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER Int.Cl <sup>6</sup> H04N5/93									
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC									
	S SEARCHED								
Int.	Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) Int.Cl <sup>6</sup> H04N5/781, H04N5/91-5/956								
Jits	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  Jitsuyo Shinan Koho 1940-1998  Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-1998								
Electronic o	data base consulted during the international search (na	me of data base and, where practicable, so	earch terms used)						
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT								
Category*	Citation of document, with indication, where ap		Relevant to claim No.						
A	JP, 2-73475, A (Sakata INX March 13, 1990 (13. 03. 90)	Corp.), (Family: none)	1-3						
A	JP, 6-165117, A (Sony Corp. June 10, 1994 (10. 06. 94)	), (Family: none)	1-3						
A	JP, 8-138318, A (Matsushita Co., Ltd.), May 31, 1996 (31. 05. 96) & EP, 762756, A2	Electric Industrial	1-3						
Furthe	or documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.							
*A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance:  "E"  "I"  "C"  "C"  "C"  "C"  "C"  "C"									
		<u>-</u>	·						
	nailing address of the ISA/ nese Patent Office	Authorized officer							
Facsimile N	о.	Telephone No.							

	四		除山服香号	PCT/JP9	8/01566	
A. 発明の	属する分野の分類(国際特許分類(IPC))					
Int C	1° H04N 5/93					
	行った分野					
調査を行った	最小限資料(国際特許分類(IPC))					
lnt C	1° H04N 5/781, H04N 5/9	1~5/9	5 6			
最小限資料以	外の資料で調査を行った分野に含まれるもの			-		
	新案公報 1940-1998年  実用新案公報 1971-1998年	•				
国際調査で使用	<b>用した電子データベース(データベースの名称</b>	、調査に使	用した用語)			
	ると認められる文献	···				
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連する	ときは、その	の関連する管	所の表示	関連する 請求の範囲の番号	
Α	JP, 2-73475, A (サカタインクス株 13. 3月. 1990(13. 03. 90) (ファミ	式会社) ミリーなし	<b>.)</b>		1 – 3	
Α	JP,6-165117,A (ソニー株式会社) : (ファミリーなし)	10.6月.19	994 (10. 06.	. 94)	1 – 3	
Α	JP, 8-138318, A(松下電器産業株式 & EP, 762756, A2	会社) 31.	5月.1996	(31. 05. 96)	1 – 3	
□ C欄の続き	にも文献が列挙されている。	□ パ	テントファミ	ミリーに関する別	紙を参照。	
<b>5</b> 0	<b>墓のある文献ではなく、一般的技術水準を示す</b>	「T」国際 てた	出願と矛盾す	優先日後に公表さ るものではなく、	れた文献であって 発明の原理又は理	
の 「L」優先権主	「L」 後先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの					
日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以文献(理由を付す) 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 よって進歩性がないと考えられるもの「P」国際出顧日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 「&」同一パテントファミリー文献						
国際調査を完了	した日 25.06.98	国際調査報	股告の発送日	07.07	.98	
日本国 郵	)名称及びあて先  特許庁 (ISA/JP)  特要号100-8915  活作用区間が関ニて日4来2品	:	発官(権限の 角田 芳末		5C 9563	
<b>水</b> 水 水 和	東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 3543					